

# 令和3年度 事業報告

施設長 魚谷 康洋

## 【全体】

平均介護度は入退所が数名あったものの4.24と昨年と大きく変わりなく、身体介護に時間を要する重度の方が入居しておられます。カンファレンス入居者の対応について多職種で検討しました。

新型コロナウイルス感染予防のため、ボランティアの受け入れや外出行事等が実施できませんでした。気候の良いときに近所の公園に散歩にお連れし、料理クラブでは旬の食材を使う等季節を感じていただけるよう工夫を行いました。面会制限につきましては、秋から年末にかけて面会室でアクリル板越しに短時間の面会を実施しておりますが、今年1月からの第六波を境に面会を中止しております。職員及び入居のワクチン接種を行い、3月までに新型コロナの感染者はおりませんでした。しかし、職員の同居家族等の感染や濃厚接触者に該当することでの急な欠勤が続き、勤務の調整に苦慮した時期もありました。

## 【入居者推移/利用料収入】

くぬぎ荘開設当初からの目標である29床満床は令和3年度も達成できず、最高入居数は25名でした。10月に2名の方が特養では珍しく在宅復帰されました。1名は元々関西方面のご出身で、家族も高齢になられ、地元にいる子どもたちの近くで生活したいとのことで退居し、夫婦で関西に行かれました。もう1名は元気に自宅で生活しているときに脳梗塞で救急搬送され、そのまま在宅復帰せずくぬぎ荘に入居された方で、面会でなかなか会えないことと、施設に預けっぱなしにしていることへの後ろめたさもあり、在宅介護を希望され退居になりました。この時期は看取りでの退居1名、入院先での死亡1名と計4名が退居し、年明け1月には2名が退居し、入居数の減少に繋がりました。

## 【職員採用・退職状況/職員数推移（介護職・看護職）】

令和3年度は22名採用し退職者は14名と非常に職員の入れ替わりの多い1年でした。求人誌の活用、採用説明会の開催、知人から紹介等で採用しております。全体的な超過勤務は減っておりますが、常勤職員が6名退職した部分を非常勤（パート）職員で補っている状態です。入浴専従の職員を採用したことにより日中の業務の負担感は減少しております。

## 【総括】

令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染対策のために施設内での活動が多岐にわたり制限されました。職員研修や外出行事、会議、避難訓練等の予定が密を避けるために実施できませんでした。非常勤職員が増加しておりますが、常勤職員が減少し、早出、準夜勤を担う職員の確保ができず、満床には至りませんでした。

退居者が出た際に、速やかに次の方が入居できるようにしてはいたしましたが、同時期に退居者が出たことと、待機者が以前ほど多くない状況でもあるためスムーズに次の入居者が決まらず、年間の稼働率が低下し、減収となりました。待機者確保は今後の経営課題です。